

シネマ203

上映作品ラインナップ

たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁に、日本最小の映画館がオープンしました。

大きなスクリーンと包み込むような音響で、小さいのに本格的な映画体験をお楽しみください。

ドキドキするような世界の映画を、月替わりで上映しています。



🔧 見たい映画を見逃す心配のない映画館に【日時オーダー受付中】

- 毎月の土日祝を中心に、シネマ 203 が上映時間を設定してスケジュールを発表します。
- 見たいのに行ける回がない！ という非常事態には、お気軽に **日時オーダー** お寄せください。
ご希望の上映時間に、ご希望の上映作品を、追加上映いたします。
(追加上映は、HP、Facebook、Instagram で随時更新しますので、どなたでもご来場ください)
- 当日券あり、いつでもふらりとご来場ください。
なお、15 席の小さな劇場ですので、ご観賞の事前予約も各回 10 名様まで承ります。
(HP のスケジュールページに予約フォーム有。電話、メール、SNS メッセージでの予約も歓迎)

🔧 入場料金 (基本料金)

一般：1,700 円 / 大専：1,500 円 / 小中高：1,000 円

- ※ 当日入口にて現金のみ。各回上映 10 分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。
- ※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくは HP やチラシにて。

🔧 アクセス【北ぶらくり丁会館 2F】

本町公園より徒歩 1～2 分

北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い道路に【北ぶらくり丁会館】の鉄看板あり。奥の赤い階段を 2 階へ。

【駅から徒歩】

和歌山市駅より徒歩 10 分 (800m)

和歌山駅より徒歩 25 分 (2km)

【駅からバス】各バス停より徒歩 2～4 分

和歌山市駅より約 1～2 分

和歌山駅より約 5～9 分



北ぶらくり丁会館 203号室

cinema 203

シネマ203

6 月の上映



和歌山市中ノ店北ノ丁 22
北ぶらくり丁会館 203号室
090-8172-7074

cinema203.com



🎬 ヨーロッパより愛をこめて、今こそ味わいたいヴェンダースの“路上”

『PERFECT DAYS』は、役所広司演じる独りの日本人のささやかな暮らしと、カセットテープで聴く音楽の力で映画ファンを魅了し、ジストシネマ和歌山でも大ヒットしました。はて、ヴェンダースとは、誰だったんだろう——2 月に『パターソン』を上映しながら、新人だったジャームッシュを支援し、世界の映画シーンへと送り出した頃のヴェンダースの真の魅力を、いま見たいと思いはじめました。折よく最新作『アンゼルム』を 7 月に上映できることになり、それならば、ということで 2 ヶ月の特集上映に挑戦します。

70 年代の作品にみなぎるアメリカ映画への熱い思い。80 年代から最新作まで、ドキュメンタリーで追う巨人への最敬礼。まずは 3 本選んで思い思いにご覧いただけましたら。



ヴィム・ヴェンダース監督特集 6～7月 (配給：東北新社)

WW—西ドイツから来た男

1974『都会のアリス』 1975『まわり道』

1976『さすらい』 1977『アメリカの友人』

ドキュメンタリスト—WW

1985『東京画』 1989『都市とモードのビデオノート』

1999『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』

+ 緊急追加上映

1984『パリ、テキサス』 1987『ベルリン・天使の詩』

🎬 緊急上映！ 今年はひと足お先にギヨーム・ブラックの夏！

昨年 10 月に楽しませてくれた『みんなのヴァカンス』に続く最新作が、早くも準備完了！東京と和歌山の 2 館で日本初公開されることになりました。ギヨーム・ブラック監督は、Kisssh-Kissssh 映画祭が 10 年前の『女っ気なし』から紹介し続けてくれたおかげで、和歌山ではすっかりお馴染みのヴァカンス映画の代名詞ですね。

フランス北部の町、高校の親友リンダとイリナに忘れられない夏が来る……。203 で毎月丁寧に映画をご観くださっている皆さまに真っ先にお届けするのが嬉しい、過ぎ去る夏の素晴らしい物語です。8 月には今年も監督特集を準備中♪



『リンダとイリナ』Un pincement au cœur

監督：ギヨーム・ブラック

撮影：エマニュエル・グラ、録音：エマニュエル・ボナ

編集：パオラ・テルミン、音楽：パオラ・テルミン

字幕翻訳：高部義之 | 配給：エタンチェ

(2023 年／フランス映画／38 分／1.33：1)

🎬 ドライヤー監督との 5 ヶ月ありがとうございました

30 年ぶりにドライヤー監督と過ごした 5 ヶ月間、素晴らしい時間をありがとうございました。『奇跡』『あるじ』『怒りの日』——はじまりの 2 月には、タイトルから想像するのも難しかった 7 本が、今はそれぞれに顔を持って、1 本ずつ大切に心に刻まれた感触があります。“聖なる映画作家”は、やはり偉大でした……。いよいよラストです。名残惜しい特集の締めくくりに、全 7 作品からリクエスト作品を順に再上映中。お見逃しの作品、最後にもう一度見たい作品、オーダーお急ぎください。



カール・テオドア・ドライヤー セレクション vol.2

- 『ミカエル』Mikaël (1924 独) 1h35
- 『あるじ』Du skal ære din hustru (1925 丁) 1h47
- 『裁かるゝジャンヌ』La Passion de Jeanne d'Arc (1928 仏) 1h37
- 『吸血鬼』Vampyr (1931 仏独) 1h14 *初のトーキー
- 『怒りの日』Vredens dag (1943 丁) 1h27
- 『奇跡』Ordet (1954 丁) 2h06
- 『ゲアトルーズ』Gertrud (1965 丁) 1h58

6 月の上映リクエスト受付中 (配給：ザジフィルムズ)

🎬 “第七芸術=映画”を刷新しつづける監督たち

先月 25 日には、本町文化堂の新企画「音楽と無声映画」が初回に『裁かるゝジャンヌ』を選んでくれて、鳥飼りょうさんのピアノ伴奏付上映が実現しました。「映画体験は一期一会」主宰の嶋田さんと鳥飼さんのトークにもうっとりしながら、203 の皆さんの背中を眺めていると、こみ上げるものがありました。もう 4 ヶ月もじっくり付き合い、「ドライヤーっていいんだよね」と集まってくださったお客様の、スタンバイ OK の空気。やっぱり和歌山の映画ファンで素晴らしいです。感謝。

5 月は、バス・ドゥヴォス監督の穏やかな 2 作品で、すっかり心が整いました。6 月です。2 ヶ月間のヴェンダース特集開幕です。

80 年代に 8 ヶ月ロングラン 14 万人動員の単館興行記録を打ち立て、築城にもやってきた『ベルリン・天使の詩』。1 月にシネマ 203 を訪れてくれた恵比寿の青年が「一番好きな映画」と言っていた『パリ、テキサス』。その 2 本だけでは見えてこない何かがある気がする。『西ドイツから来た男』と題した初期 4 作品から、見つけていただけたらと思います。

7 月の最新作『アンゼルム』に向けては、『ドキュメンタリスト』3 作品もオススメです。「ドキュメンタリー」にもいろいろありますが、ヴェンダースは一貫して「巨人」を追いかけてきた監督です。今回ご紹介する 3 人、映画の巨人-小津安二郎、ファッション・デザインの巨人-山本耀司、ルーツ音楽探究の巨人-ライ・クーダーの他にも、舞踏-ビナ・バウシュ、写真-セバシチャン・サルガドなど……そのすべてが、第七芸術=映画の創造に欠かせない人選であったことに、今回はじめて気が付きました。

芸術家-アンゼルムははたして——。楽しみです。

夏になるとフランスからそよ風を送ってくれるギヨーム・ブラック監督が、思っていたよりも早く新作を届けてくれることになりました。こちらは「38 分のドキュメンタリー」。ドキュメンタリーというより、映画としてまったく新しい何かを、ごくごくシンプルな喜びとして見せてくれます。爽やかでちょっぴり切ない彼の魔法を、夏を待つ和歌山で満喫してください♪

(北ぶらの新しもの好きより)